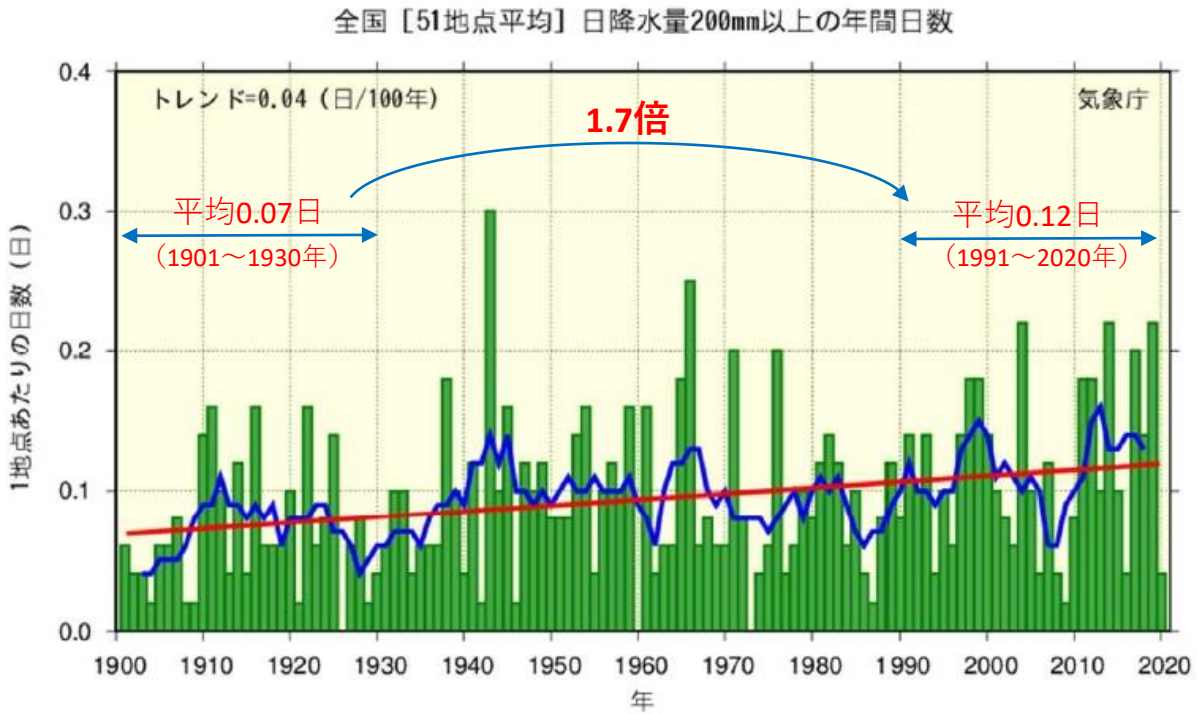
資料1

大雨発生回数の増加傾向



全国の気象台など51観測地点での日降水量200mm以上の年間発生日数（1901～2020年）

棒グラフ（緑）：　各年の発生回数（全国51観測地点による）
直線（赤）：　長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）、
信頼度水準99%で統計的に有意。

観測地点
旭川、網走、札幌、帯広、根室、寿都、秋田、宮古、山形、石巻、福島、伏木、長野、宇都宮、福井、高山、松本、前橋、熊谷、水戸、敦賀、岐阜、名古屋、飯田、甲府、津、浜松、東京、横浜、境、浜田、京都、彦根、下関、呉、神戸、大阪、和歌山、福岡、大分、長崎、熊本、鹿児島、宮崎、松山、多度津、高知、徳島、名瀬、石垣島、那覇

令和3年4月22日　参議院国土交通委員会　提出資料1
自由民主党・国民の声　足立　敏之
出典：気象庁資料を基に足立敏之事務所加筆・編集

資料2

2℃及び4℃上昇シナリオによる将来の降水量予測

将来予測

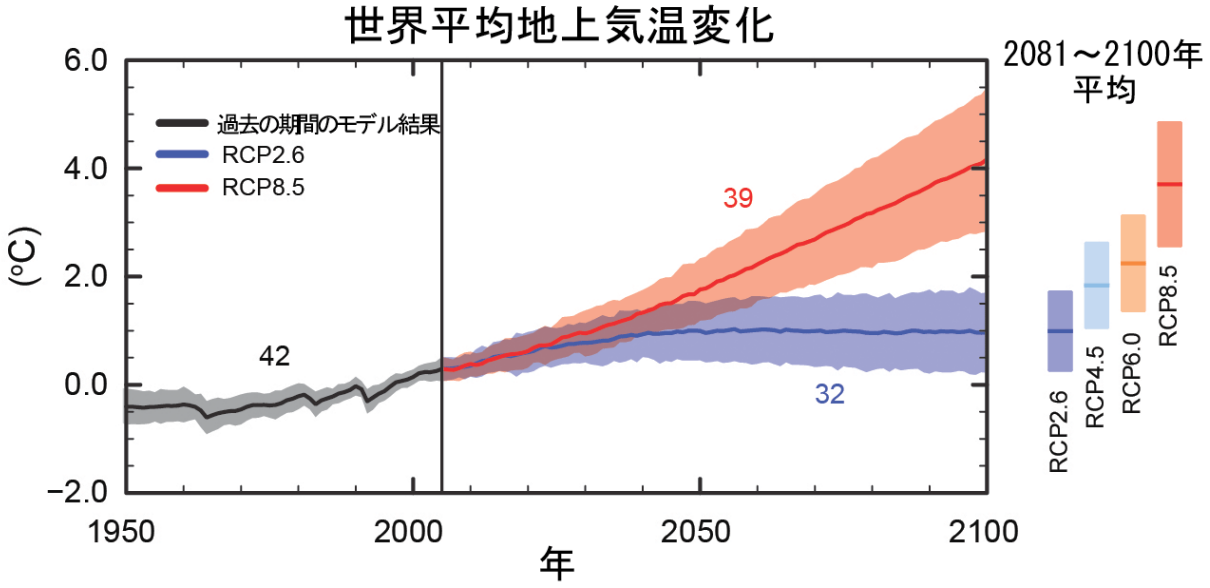
	2°C上昇シナリオによる予測 パリ協定の2°C目標が達成された世界	4°C上昇シナリオによる予測 現時点を超える追加的な緩和策を取らなかった世界
日降水量200 mm以上の年間日数	約1.5倍に増加	約2.3倍に増加
1時間降水量50 mm以上注) の頻度	約1.6倍に増加	約2.3倍に増加
日降水量の年最大値	約12%（約15 mm）増加	約27%（約33 mm）増加
日降水量1.0 mm未満の年間日数	（有意な変化は予測されない）	約8.2日増加

注）1時間降水量50 mm以上の雨は、「非常に激しい雨（滝のように降る）」とも表現される。傘は全く役に立たず、水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなるような雨の降り方である。

令和3年4月22日　参議院国土交通委員会　提出資料2
自由民主党・国民の声　足立　敏之
出典：文部科学省及び気象庁資料「日本の気候変動2020」を基に足立敏之事務所編集

地球温暖化に伴う降雨量の変化

資料3



RCPシナリオ（代表濃度経路シナリオ）による平均気温上昇予測（IPCC第5次評価報告書より）

＜地域区分毎の降雨量変化倍率＞

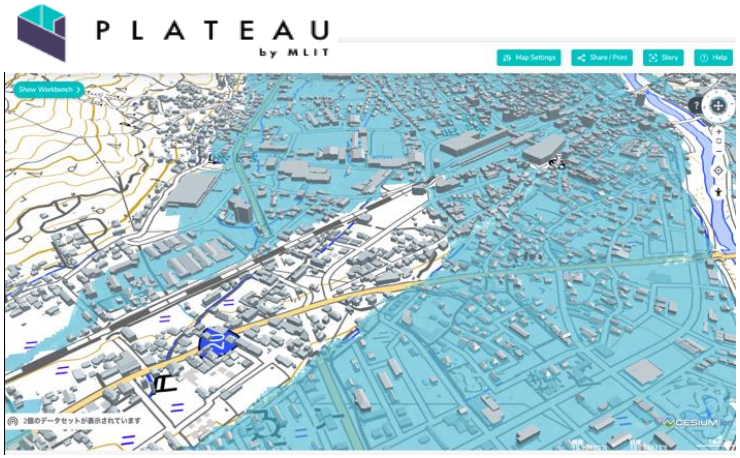
地域区分	2℃上昇相当（暫定値）	4℃上昇相当	短時間
北海道北部、北海道南部、九州北西部	1．15	1．4	1．5
その他12地域	1．1	1．2	1．3
全国平均	1．1	1．3	1．4

平均気温が2℃及び4℃上昇した場合の降雨量増加率の予測

令和3年4月22日　参議院国土交通委員会　提出資料3
自由民主党・国民の声　足立敏之
出典：IPCC評価報告書（気象庁訳）及び国土交通省資料を基に足立敏之事務所編集

資料4

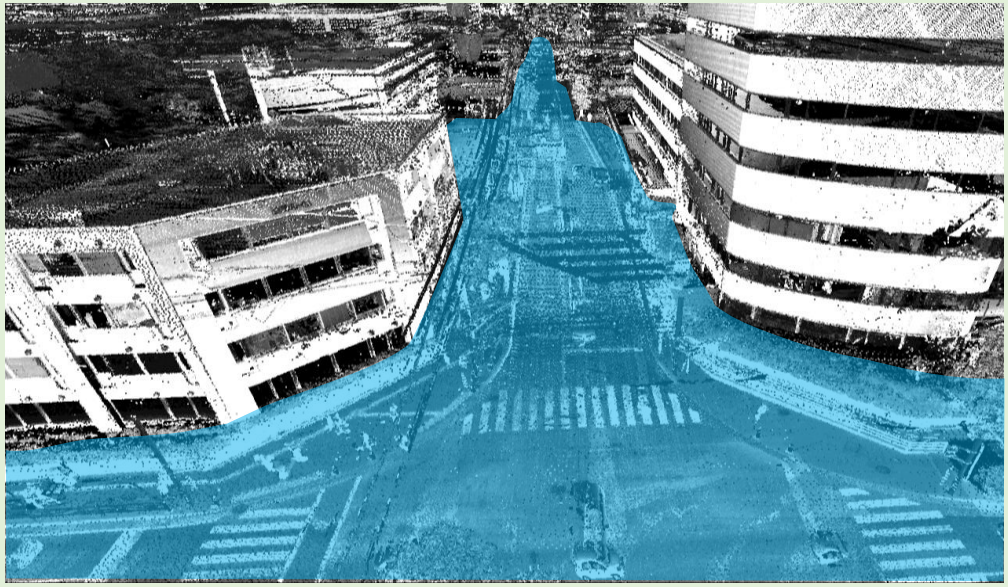
3次元基盤データを活用したハザードマップの例



広域情報（1/2500レベル）

より詳細に、住民視点での情報提供を！

浸水予測３次元基盤データに表示



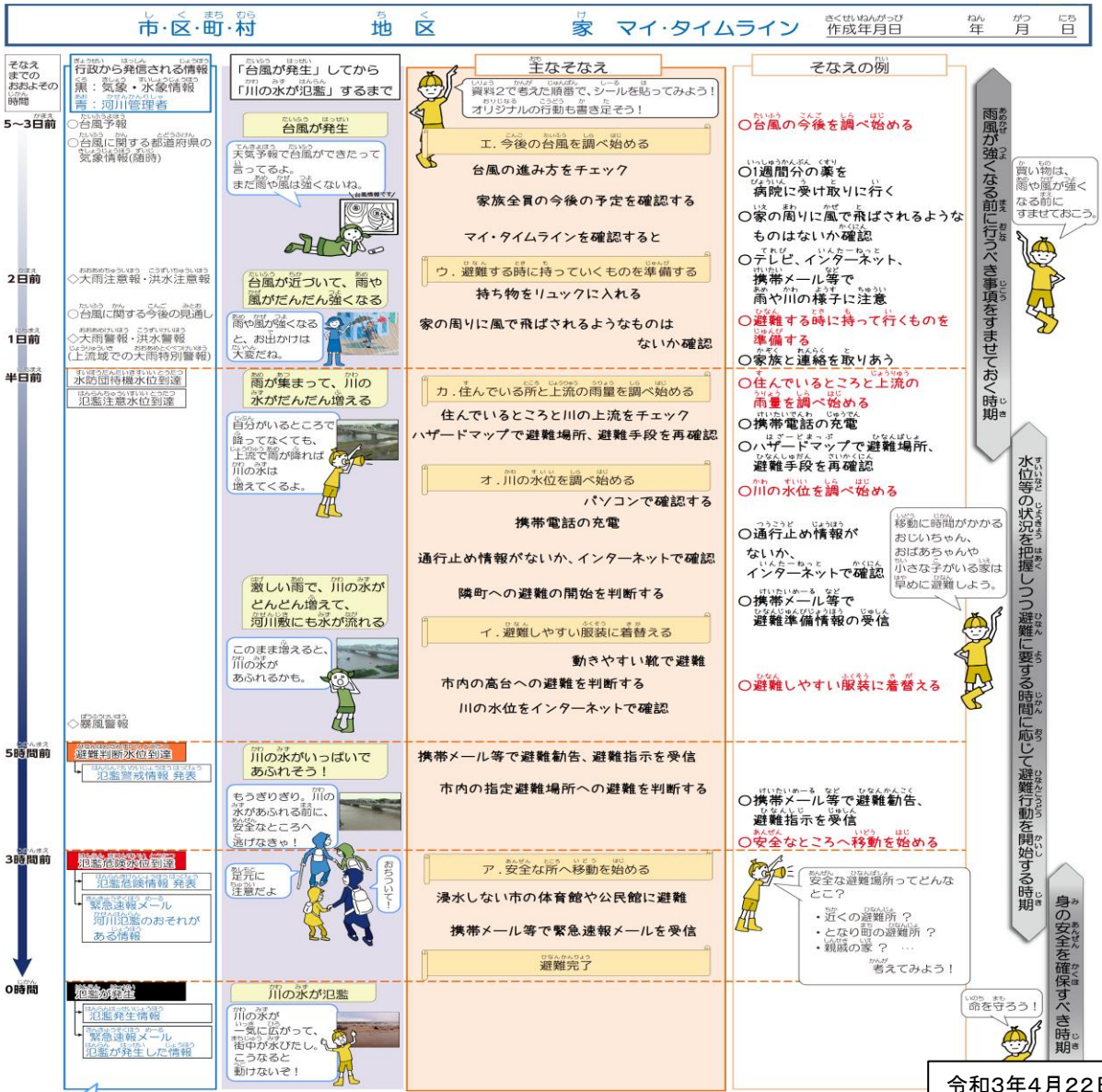
重点エリア情報（1/500レベル）

住民避難経路の表示

令和3年4月22日　参議院国土交通委員会　提出資料4
自由民主党・国民の声　足立　敏之
出典：：国土交通省、全国測量設計業協会連合会資料を基に
足立敏之事務所編集

資料5

マイ・タイムラインのイメージ



気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間は、イメージで記載しています。
避難勧告等のタイミングは市区町村によって異なります。市区町村のタイムラインを確認して下さい。

令和3年4月22日　参議院国土交通委員会　提出資料5
自由民主党・国民の声　足立　敏之
出典：国土交通省資料を基に足立敏之事務所編集